

## 交渉の議事要旨

### (開催日時)

平成24年9月13日(木) 16:00~16:58(58分)

### (開催場所)

札幌開発建設部 4階2号会議室

### (出席者)

当局側(札幌開発建設部)

角地 泰英(札幌開発建設部次長)、大石 稔(職員課長)

職員団体側(全北海道開発局労働組合札幌支部)

高久保 陽一(書記長)、和田 章宏(執行委員)、橋村 恵美子(執行委員)

渡邊 和典(執行委員)

### (議題)

- 1 当部における超過勤務の縮減について
- 2 当部職員のメンタルヘルスについて
- 3 当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について
- 4 当部における育児休業及び育児のための短時間勤務が活用しやすい職場環境の整備について

### (要旨)

#### 【議題1：当部における超過勤務の縮減について】

(職員団体) 本年4月から7月の超勤実績が昨年度から大幅に増加している要因は何か。

(当局) 中山峠の災害対応や会計検査対応などが主な要因である。

(職員団体) 万が一にも長時間の超過勤務が原因による過労死が発生しないような対応を求める。

(当局) 長時間超過勤務の解消に向け、課所長に対する指導を徹底したい。なお、長時間の超過勤務を行った者については、臨時の健康診断を受診させており、職員の健康管理に十分注意を払っている。

(職員団体) 定時退庁日でも忙しくて帰れない職員について、課長からの声かけや指導等が何もない場合があると聞いている。個人の努力ではどうしようもないこともあるので、管理者が超過勤務縮減対策を考えるべきである。

(当局) 事務処理の簡素・効率化を図り、超過勤務の縮減に努めるよう課所長を指導していきたい。

(職員団体) スタッフ制が有効活用されていない。また、業務改善について何も指導を行わない管理職がいるが、当局の認識如何。

(当局) 業務の進行管理は重要であり、職員に対して適切なアドバイスを行うよう、課所長を指導していきたい。

【議題2：当部職員のメンタルヘルスについて】

(職員団体) 繰り返し病気休暇を取得し、復帰してもすぐに休む者について、周りの職員の負担も大きいので、しっかり治してから復帰させるべきであると考えるがどうか。

(当局) 病気休暇からの復帰に際しては、主治医の診断のほか、必要に応じて健康管理医の診断も行う必要があるものと認識している。また、復帰に当たっては、「試し出勤」も試行している。

(職員団体) 職場がメンタル系疾患の原因となっている場合もあるので、管理者による目配りやコミュニケーションをしっかりとることが必要である。

(当局) メンタル系疾患の原因は様々であるが、引き続き管理者に対して、職員との意思疎通を図るよう指導を行っていききたい。

(職員団体) 復職支援についてどのような対策をとっているのか。

(当局) 本人、所属長、主治医及び健康管理医が連携し、担当業務や復職時期等を調整するなど、職員の円滑な職場復帰に努めている。

【議題3：当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について】

(職員団体) 組合の調査では職場でパワハラを受けたことがある者は3.5人に1人という実態が判明しており、支部としては職場でパワハラがあると認識しているがどうか。

(当局) 当部において、パワハラが行われたという事実は承知していない。

(職員団体) パワハラの起きないように職場作りを求める。

(当局) 人事院で作成している言動例の周知等を引き続き実施し、パワハラが行われない職場環境整備に努めていききたい。

【議題4：当部における育児休業及び育児のための短時間勤務が活用しやすい職場環境の整備について】

(職員団体) 各種制度について、理解度が非常に低い職員がいるものと認識しているが、当局ではどのように周知を行っているのか。

(当局) 掲示板やメールなどで職員への周知に努めているところであり、引き続き、職員の理解が深まるよう努めていききたい。

(職員団体) 男性職員が育児休業等を活用しやすい職場環境の整備を求める。

(当局) 今後も制度等の情報提供を行うなど、制度を活用しやすい職場環境整備に努めていききたい。

以上